大通公園を望む窓辺から

医療機能評価機構

常任理事　後藤　　聰

病院の質を客観的に評価する方法として医療機能評価機構の評価がある。最近、本州の某大学で手術に伴う不祥事が頻発した。その病院がたまたま、直近にこの認定を受けたということで、機能評価自体の信憑性と存在意義までも問われることになった。評価は立入検査とは違うので、隠ぺいされたらどうしようもない。機構への批判は少しお門違いだと思われる。

私はもう十年以上、この機構のサーベイヤーとして、100回近く評価に従事している。

きっかけは、自分の病院が受審するにあたって、内部に入ったら少しは有利な情報を得ることができるだろうと考えたからだ。こういう動機でサーベイヤーになる医療者が、当時は結構多くて、陰では“不順な動機を持った面々”と言われていた。

他の病院を訪問するのは普段は見ることができない病院の内部を見学することができて、ある意味では楽しい。ただ、いつもその後のレポート書きには泣かされる。いざ記載する時になると、確認洩れがどうしても発生する。私は特に雑な性格なようで、記載に苦労してもうサーベイに行くのはお断りしようと思う。しかし、またレポートを提出するとそのことを忘れて、次の依頼を心待ちするようになる。

何日間か病院を空けるので、申し訳ないのだが、自分の病院の受審のさいには職員に少しでもお役に立っているかとも思う。同系列の病院とか、近郊の病院には頼まれると受審の指導には伺っている。

スーパーおおぞら６号

理事　稲葉　秀一

帯広12時59分発スーパーおおぞら６号、私が理事会の時にいつもお世話になる列車です。２時間37分の車中ですが、本を読んだり、うたた寝したり、時局を考えたり・・・。

「社会保障膨張　歳出最大」、閣議で2015年度予算案を決めた翌日の新聞の一面を飾った見出しです。何だか社会保障が悪者にされた書き方で、違和感を覚えたのは私だけでしょうか。国の財政上の大きな課題として社会保障費の増加があります。そして国は、今後年金や医療等の社会保障費をいかにして絞り込むかを考えています。社会保障費の増加があたかも少子・高齢社会と結び付けて議論されていますが、「人口ピラミッド」の年代推移を調べてみますと、四半世紀以上前から今日の人口構成は分かっていたことです。それに対して有効な解決策を取らないで、ここにきて声高に少子・高齢社会、急速な人口減少社会が待ち受けていることの議論をはじめたのは何故なのでしょう。

少子・高齢社会と人口減少→経済成長の停滞と社会保障費の増加→経済・財政の悪化→社会保障費の抑制、の構図が見えてきます。経済の再生、財政の健全化の掛け声のもと、いつの間にか、市場原理の考えが社会保障費の意識にも入り込んでいるように思えてなりません。人口構成の変化での説明は非常に分かりやすく、何となく納得してしまう、そのためなのではないでしょうか。

先ごろ農協改革案を巡り、全国農業協同組合中央会（全中）と与党・政府間で激しく議論が交されていました。マスコミ報道を見て気になったのは、全中は旧守派で各農協に対して悪代官のようなイメージで見られていたことです（実際は違うのですが）。背景にはTPPも見え隠れしていました。同じような構図で今度は、日本医師会VS規制改革会議・産業競争力会議になるのでしょうか・・・。

そんなことを考えていたら、そろそろ札幌に着く時間になりました。